

科目名	化学
授業形態	講義 実験
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間 1単位(生活科学の10時間と合わせて計30時間)
授業担当者	生田 国一

学習目標

- 1物質がもついろいろな性質を知り実生活と結びつけながら理解する。
- 2高温や低温について知り温度によって物性が変化することを理解する。
- 3科学工作をすることを通して身の回りの事象を科学的に理解する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	金属の特性	金属の特性である電気をよく通すことを他の物と比較しながら学習する。更に金属は金属光沢があり延展性があることを知る。	金属は電気の良い導体である。金属は金属光沢がある。金属は延展性がある。
2	空気中の気体の原子	仮設実験授業の「もしも原子が見えたなら」という授書で原子や分子についての学習をする。	空気中には窒素や酸素などの原子が動き回っている。酸素や窒素のほかにも二酸化炭素や水や体によくない気体もある。
3	原子や分子模型の作成①	前時の授業書に出てきた気体の分子を発泡スチロール球を使って分子モデルをつくる。	空気中にある気体は原子が共有結合し分子の状態で存在する。希ガス元素は原子1個だけで存在する。
4	原子や分子模型の作成②	非金属原子の結合は共有結合であることを確認しながら、それを発泡スチロール球を使って分子モデルを作成する。	原子の結合には大きく3つがある。希ガス元素を除く非金属原子は共有結合で分子として存在している。
5	原子の構造と原子の結びつき方	原子の構造について知り、原子の結合には最外殻の電子が関係していることを知る。原子の結合には大きく分けて「イオン結合」と「共有結合」と「金属結合」がある。	原子の中心に原子核がありそのまわりを電子が回っている。電子が存在する場所(電子殻)があり原子の結合には最外殻の電子が関係している。
6	物の体積と重さ	気体にも体積があり重さがあることを知る。全ての物に体積と重さがある。	物は重さがあり体積がある。1モルの原子の数は 6.02×10^{23} 個。全ての気体は1モルの体積が標準状態では22.4Lある。
7	三態変化	常温で気体や液体や固体の物の温度を変化させ状態の変化を調べる。	物の温度によって個体・液体・気体と状態が変化する。
8	酸・アルカリ(塩基)の性質	酸性やアルカリ性を示す物質の共通な性質を調べる。	酸性の物質は水溶液にした時に酸味がありマグネシウムや亜鉛と反応して水素を発生させる性質がある。アルカリの物質は水溶液にしたとき苦い味がして手につけるとぬるぬるする性質がある。水溶液にした時に酸やアルカリの物質はイオンに電離していく。
9	イオンと食べ物①	イオンテスターを使って身の周りの物にイオンがあるか調べる。	多くの食べ物の中にイオンが含まれている。
10	イオンと食べ物②	読み物資料等から生活とイオンの関係について考える。	自然の中にある多くのイオンによって生活が支えられている。イオンと地球環境は深く関わっている。

評価方法

定期試験による学科テストと授業後のレポート。定期試験は100点満点の60点以上が合格

参考図書等

理科授業作り入門(日本標準)、Newton(ニュートンプレス)化学(東京書籍)、もしも原子が見えたら(仮設社)、イオンと食べ物(仮設社)、分子模型をつくらう(仮設社)
 歯科衛生士教本「化学」(医歯薬出版株式会社)、理科教室(本の泉社)

科目名	化学(生活科学)
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	10時間(化学の20時間と合わせて計30時間 1単位)
授業担当者	浅海 真弓

学習目標

1. 身近な生活を科学の視点でとらえる。
2. 化学物質のリスクを理解し、安全・安心な生活を営む。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	衣生活の科学①	衣服の素材について(繊維の種類と構造、性質)	身近な衣服素材の性質について理解し、着用する季節や場面などに合わせた素材を選択できるようになる
2	衣生活の科学②	衣服の洗濯について(洗剤の種類と汚れ除去のしくみ)	洗剤の種類や特徴、汚れ除去のしくみを理解し、素材に応じて適切な洗濯方法を選ぶことができるようになる
3	食生活の科学	食生活と栄養、食生活の安全性と問題点について	栄養バランスや食の安全に対する現代の課題を理解し、自らの食生活の改善に向けて実践できる
4	住生活・生活用品の材料	住まいの機能と住環境、多様な生活用品のしくみについて	安全で快適に生活するための住環境について理解する 身近な生活用品の特徴やしくみ、問題点について理解する
5	衣食住と環境	循環型社会と衣食住のリサイクルについて	衣食住に関わるリサイクルの現状を理解し、それらの課題を解決するための行動へつなげる

評価方法

定期試験による学科試験を行う。定期試験は100点満点の60点以上が合格。

参考図書等

山本直成・浦上智子・中根芳一「生活科学(第6版)」オーム社、牛腸ヒロミ監修・中西正編著「生活材料学の基礎」光生館

科目名	生物学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	塔筋 弘章

学習目標

ヒトを含む生物のしくみや生物と環境との関わりを理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	生物の基本構造	生物を構成する物質と細胞	生物にを構成する物質および細胞の構造について理解する
2	生命活動は化学反応	細胞の活動:酵素、呼吸、代謝	酵素の働き、代謝、生物がエネルギーを獲得するしくみを理解する
3	遺伝子からタンパク質	DNAの構造と複製、翻訳	DNAの構造と複製の方法、遺伝子発現を理解する
4	単細胞から多細胞へ	原核生物、真核生物、多細胞生物	原核生物、真核生物、多細胞生物のなりたちについて理解する
5	卵から個体へ	発生と分化:細胞分裂、分化、生殖	受精卵が体を作っていくしくみについて理解する
6	遺伝のしくみ	メンデルの法則	遺伝のしくみの基礎について理解する
7	突然変異	遺伝子の損傷、修復、変異	DNAの損傷とその修復の方法、突然変異を理解する
8	進化論	ラマルクからダーウインへ	進化論の基本的な考えを理解する
9	生物の進化	恐竜から鳥へ	恐竜を題材に、生物の系統と進化について理解する
10	人類の進化	生物の系統、ヒトの進化、進化論	猿人からヒトへの進化について理解する
11	水族館見学	かごしま水族館見学	水生生物の種類や生活様式、環境について理解する
12	水族館見学	かごしま水族館見学	水生生物の種類や生活様式、環境について理解する

評価方法

定期試験による学科試験を行う

教科書

必要に応じてプリントを配布する

科目名	心理学
授業形態	講義
開講時期	1年前期・1年後期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	四元 真弓

学習目標

”心とは何か?」「心」をもつ人間」に対して深く理解(洞察)し、歯科衛生士としての感性を育み「心をもつ人間」に対する真の援助のありようを感得する
「心理学」の講義を通して、人間の心のもつ意味・背景を深く理解し、真の臨床援助のできる歯科衛生士としての自己成長を促す

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	臨床援助とは	臨床援助の概念、開かれた関係のありよう	臨床援助の概念について理解する
2	臨床援助と発達観・教育観・治療観	人間学的心理学に立脚した発達観、教育観、治療観	治療者としての発達観、教育観、治療観を深め、人間観をもってクライアントに向き合う治療者としての姿勢を育む
3	自我の拡散と自己の確立	人間学的心理学に立脚した発達観、教育観、治療観	自我と自己、自我のありようについて理解を深める
4	自我の拡散と自己の確立	自己実現、自己概念、自我の再体制化のありよう	自己概念について理解し、自己へのきづきを深める
5	援助のための心理査定	心理学的検査の数値のもつ意味の理解、援助的配慮の感得	クライアントの大切な一部である査定の結果が表す意味を理解する
6	病める心への援助	精神分析療法、行動療法、人間学的心理療法について	それぞれの心理療法がもつ治療仮説について理解する
7	病める心への援助	カウンセリングにおける支援のあり方	カウンセリングに必要なセラピストの心構えについて感得する
8	病める心への援助	あそびのもつ意味、プレイセラピーについて	あそびのもつ心理的意味について深く理解する
9	病める心への援助	アクスラインの8つの原理について	アクスラインの8つの原理を通してセラピストとしてのうごきを感得する
10	自閉症障害	自閉性障害の概念、原因について	自閉性障害の変遷をみながら、クライアントの特徴を知る
11	自閉症障害	自閉性障害の行動の理解、発達援助のあり方について	クライアントの行動の意味、支援のあり方について理解する
12	P T S D	トラウマ、PTSDの症状について	PTSDのクライアントの症状を深く理解する
13	P T S D	PTSDのクライアントへの援助のあり方について	PTSDのみたてをもち、配慮ある適切なかかわりを身につける
14	心の病気	似て非なるもの(心身症、神経症、精神病)について	心の病気をもつクライアントへのみたてときづきを深める
15	高齢者	エイジング、高齢者の自己概念のありようについて	高齢者の抱えるものを理解し、援助のありようを感得する

評価方法

定期試験による学科試験を行う(直筆ノート持込可)

参考図書等

臨床心理学 ～「生きる意味」の確立と心理支援 (久留一郎・餅原尚子著) 八千代出版

科目名	社会学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	金子 満

学習目標

日本社会が抱える現代的課題の背景を社会学、人間理解の視点から理解する
 学生にとっては身近な課題となる「青年期の諸問題」「家族」「コミュニケーション」について、日本社会の特質や顕在化する課題を理解する

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	講義内容の紹介	講義内容の全体像を紹介し、社会学の講義において扱う諸問題を理解する	現代の日本社会が抱える諸問題を理解し、社会学の視点から、社会現象、社会問題をどのように捉えるかを理解する。
2-5	青年期の諸問題	フリーター、ニート、自殺、ひきこもりなどの青年期をめぐる社会現象を捉えつつ、青年のアイデンティティの形成について考える	青年たちによる「やさしい関係」に代表される諸現象がどのようなかたちで社会構造とつながっているのかについて理解しつつ、これらを踏まえ青年のアイデンティティの意味について理解する
6-7	家族	共依存、DV、児童虐待など夫婦の問題、親子関係をめぐる社会現象をとりあげ、そのメカニズムについて考える	夫婦の問題、親子関係の問題がどのような社会的背景から生まれているのかを理解する
8	社会調査	日常にあふれる数値や統計に関する、社会的理解を深める	さまざまなメディアの中で使用される統計やデータを読み解く力をつける
9-10	コミュニケーション	コミュニケーションについて、ソーシャルキャピタルの理論を用いながら、「信頼」をキーワードに現代の社会問題と照らし合わせて考える。	コミュニケーションの持つ意義を理解し、かつ「信頼」の崩壊が社会に与える影響について理解しながら、人とかかわる存在としての医療従事者としての自覚を深める

評価方法

講義中の感想及びレポートにより評価する

参考図書等

講義にて資料を配布する

科目名	健康社会学
授業形態	講義
開講時期	1年後期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	長岡 良治

学習目標

健康の概念の変化を理解するとともに、人々の健康を脅かす社会的な生活問題について関心を持ち、21世紀の健康と社会のあり方について考えることができる

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	ガイダンス、健康社会学とは、健康の今日的課題	健康と社会の理想的なあり方を追求するために人々の健康を脅かす社会的な生活問題について解説する	健康社会学の概要、健康問題の今日的課題について理解する
2	健康観のライフサイクル 青年期の健康学習	ライフステージにおける健康観の変化と青年期における健康観について解説する	健康観のライフサイクルと青年期の健康について理解する 健康の基本は愛することであることについて理解する
3	健康の世界史	中世社会のハンセン病や腺ペストなどがヨーロッパの人達の生き方や文化に与えた影響について解説する	伝染病が宗教改革や人々の生き方、社会文化に与えた影響について理解する。
4	産業革命と公害、今時の公害と健康問題	産業革命によりどのような公害が起こったか、今時の公害と健康問題について解説する	科学技術の恩恵と負担、今時の健康被害について理解する
5	健康の日本史(1)	養生思想とWHOの消去法的思考様式および無限性追求について解説する	養生思想とWHOの健康観の違いについて理解する
6	健康の日本史(2)	日本社会の健康化—生活環境、教育環境、労働環境の整備、病院開設の歴史について解説する	21世紀の健康と社会のあり方について理解する
7	ミクロの健康、マクロの健康	産業社会におけるマクロな健康がミクロな健康に及ぼす功罪について解説する	ミクロな健康とマクロな健康のあり方について理解する
8	健康社会のパラドックス	健康を求め続けているのに健康不安に陥るメカニズムについて解説する	健康不安からの脱却法について理解する
9	健康格差社会	教育格差・経済格差・健康格差の相互作用について解説する	健康格差社会を引き起こす理由について理解する
10	ネット社会と健康、日本のヘルスプロモーション	ネット社会による健康問題や健康づくりの為に実行されている様々な施策について学習する	健康づくりの様々な施策とヘルスプロモーションについて理解する

評価方法

学習態度・状況、定期試験による筆記試験等により評価する

参考図書等

山崎著「健康と医療の社会学」東京大学出版会、篠原著「新しい健康問題のとりえ方」大修館
 北沢著「健康の日本史」平凡社、柘本著「健康社会学への誘い」世界思想社、上杉著「健康不安の社会学」

科目名	人間関係論
授業形態	講義(演習・実習を含む)
開講時期	1年後期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	神薗 紀幸

学習目標

人間関係の様々な側面を現代の心理学がどのように扱っているかについて概観し、その基本的な理論を理解すると共に、人間の社会的行動とそこに作用する心理的側面について解説する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1・2	対人行動の基盤となる個人的特性	個人的特性とパーソナリティ理論、帰属過程	対人行動の基盤となる個人的特性の働きを理解し、人間関係を理解するための視座を築く
3・4	社会的・対人的行動の様相	自己開示、援助行動、攻撃行動、説得、態度変容	様々な社会的影響過程を理解する
5・6	対人関係の形成と発展・崩壊過程	対人魅力、対人認知、帰属理論	人間関係進展における心理的プロセスを理解する
7	集団過程	集団が個人に及ぼす影響、個人が集団に及ぼす影響、集合行動	様々なグループプロセスを理解する
8・9	対面的人間関係についての詳細	カウンセリング的関わりの基礎	カウンセリングプロセスを介した人間関係構築のあり方を理解する
10	まとめ、評価試験		

評価方法

出席状況、受講姿勢、提出物、筆記試験による

参考図書等

特に指定しない。必要な資料は講義中適宜配布する。

科目名	外国語
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	山崎 美智子

学習目標

歯科英語に慣れ、英語による患者との簡単な会話ができるようになる。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標	Text
1	導入・学習方法	Introduction to English	英語学習の仕方の確認・英語で自己紹介ができる	-
2	英語の基礎	動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
3	英語の基礎	Be動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
4	英語の基礎	助動詞の使い方	歯科医院で用いる表現をもとに文法の学習	
5	予約	1.Making an appointment by telephone	電話での予約に対応できる	p3
6	薬の依頼	2.Requests for medicine	薬の処方について説明できる	p9
7	救急の予約	3.Emergency appointments	救急患者への対応の仕方を学ぶ	P15
8	救急の予約	3.Emergency appointments	救急患者への対応の仕方を学ぶ	P16
9	健康保険	4.National Health Insurance	国民健康保険の説明ができる	P21
10	問診:症状の説明	5.Asking the patient to describe symptoms	歯の痛みについて尋ねることができる	P25
11	問診:症状の説明	5.Asking the patient to describe symptoms	痛みの表現を学ぶ	P25
12	問診:病歴	6.Asking the medical history	既往歴について尋ねることができる	P33
13	ブラッシング	13. Tooth Brushing instruction for an child	子供に対してブラッシングの説明ができる	p95
14	ブラッシング	14. Tooth Brushing instruction for an adult	大人に対してブラッシングの説明ができる	p95
15	Review	Review	まとめ	

評価方法

(単語力、文法力、表現力を確認するための筆記試験 および 授業時の態度)

参考図書等

(テキスト:「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版株式会社出版)

科目名	英語
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	30時間 1単位
授業担当者	南 徹

学習目標

1. 言語表現技法を身につけること
2. 英語で日常会話ができ、英語でのコミュニケーション能力が身に付くこと
3. 歯科に関する基礎英語力を身につけること

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	言語としての英語Ⅰ	対話をいかにして学ぶか	英語による対話ができるようになる
2	言語としての英語Ⅱ	言葉による表現技法	英語による対話ができるようになる
3	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
4	英語質問力Up	疑問詞の使い方	疑問詞の使い方ができるようになる
5	自己他己紹介	英語で自分の紹介と知人の紹介	英語で自己・他者紹介ができるようになる
6	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
7	基礎生物英語	生物に関する英語力育成	生物に関する英語での表現ができるようになる
8	基礎人体英語	人体を英語で如何に表現するか	人体について英語での表現を理解する
9	病気のあれこれ基礎英語	英語で学ぶ基礎的な病気の症状や対処	病気の症状や対処法について英語での表現できる
10	Native English	外国人講師による英会話講座	外国人講師との会話ができるようになる
11	歯科英語Ⅰ	病院を訪れた外国の患者さんへの対応	外国人患者へ英語で会話できるようになる
12	歯科英語Ⅱ	歯に関する知識を英語で表現	歯科英語の基礎を理解する
13	歯科英語Ⅲ	歯に関する知識を英語で表現	歯科英語の基礎を理解する
14	英語学習総まとめ	学んだ講座の復習と質問	英語で自分の意見や考えを述べ、英作文の応用ができる
15	期末考査	試験	単位認定試験を実施し、到達度の確認を行う

評価方法

対話力、読解力、リスニング力、ライティング力などの歯科英語技能模擬試験等を行う

参考図書等

電子英語辞典、英和及び和英辞典、CDプレイヤー
各講師の各授業に応じて作成された教材
「歯科英語」全国歯科衛生士教育協議会編 医歯薬出版株式会社出版

科目名	情報処理
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	山下 圭三

学習目標

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	Windowsの基礎	コンピュータの基礎知識・Windowsの基本操作	コンピュータの基礎知識、Windowsの基本操作について理解する
2	Word初級	Wordの基本操作と文字入力	Wordの基本操作と文字入力について理解する
3	Word初級	文書作成の基本操作	文書作成の基本操作について理解する
4	Word初級	保存と編集操作	保存方法と編集操作について理解する
5	Word初級	表作成と図形の活用・印刷	表作成と図形の活用と印刷方法について理解する
6	Excel初級	Excelの基本操作	Excelの基本操作について理解する
7	Excel初級	表作成の基礎	表作成の基礎について理解する
8	Excel初級	数式と関数	数式と関数について理解する
9	Excel初級	ワークシートのグループ化とブックについて	ワークシートのグループ化とブックについて理解する
10	WordとExcel初級	総合演習	総合演習を通して理解を深める

評価方法

参考図書等

必要に応じて資料を配布する

科目名	情報処理
授業形態	講義
開講時期	2年前期
時間数・単位	20時間 1単位
授業担当者	山下 圭三

学習目標

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	Windowsの基礎	コンピュータの管理・コントロールパネルの設定	ファイル管理とコントロールパネルの設定の仕方について理解する
2	Windowsの基礎	インターネットと電子メールの活用	インターネットでの情報検索や電子メールの活用方法について理解する
3	Word応用	案内文の作成	Wordの編集操作について理解する
4	Word応用	お知らせの作成	表現力をアップする機能について理解する
5	Excel応用	計算式と関数 1	計算式と関数の使い方について理解する
6	Excel応用	グラフ作成	グラフ機能の使い方について理解する
7	Excel応用	データベース機能	データベース機能の使い方について理解する
8	Power Point初級	プレゼンテーションの作成・素材の利用	プレゼンテーションの作成・素材の利用について理解する
9	Power Point初級	アニメーション機能の利用	アニメーション機能の利用について理解する
10	Power Point初級	プレゼンテーションの作成の実際	課題を設定してのプレゼンテーションの作成ができる

評価方法

参考図書等

必要に応じて資料を配布する

科目名	日本語表現法
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	原田 義則

学習目標

歯科衛生士の業務を前提とした、日本語文章の表記力及び表現力を身につける。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	オリエンテーション	講義の目標・内容・方法・評価について説明する。また、講師と受講生との信頼関係を構築する第1歩としての講師自身による自己紹介を行う。	講義の目標・内容・方法・評価について理解する。講義への積極的な受講のための構えを作る。
2	文章表記力について①	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る。	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確な表記をすることができる。 (常用漢字、異字同訓)
3	文章表記力について②	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る。	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確に表記することができる。 (同音異義語、書き間違いやすい漢字)
4	文章表記力について③	文章作成の基本となる表記力について認識を高め、正確な文字の習得を図る。	誤字・脱字による文章作成を行わないために、文化庁の告示資料等を基にして、正確に表記することができる。 (現代仮名遣い等)
5	文章表現力について①	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する。	適切な文章を作成するために、文化庁が示した指針等を基にして、正しい敬語の使い方について理解する。
6	文章表現力について②	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する。	相手に失礼が無く、効果的で論理的な文章を作成するための表現スキルについて理解する。
7	文章表現力について③	効果的な文章表現スキルについて認識を高め、相手を想定した適切な文章を作成する。	相手を想定した文章(実習のお礼、新聞投稿原稿等)を実際に書き、自己評価することができる。
8	総括	文章表現に係る理論及びスキルについて整理・確認する。	文章表現に係る理論及びスキルについて理解し、文章表現に関する認識を形成する。

評価方法

「授業態度」(積極的な発言)・「小テスト」・最終回で実施する「まとめテスト」で評価する

参考図書等

必要に応じて資料を配布する

科目名	コミュニケーション論
授業形態	講義
開講時期	1年前期
時間数・単位	15時間 1単位
授業担当者	原田 義則

学習目標

歯科衛生士の業務を前提とした、コミュニケーション能力を育成する。

授業計画

回	授業題目	授業内容	到達目標
1	コミュニケーションの重要性	人間と人間との関係性の中で、コミュニケーションの目的・内容・方法について講義する。	社会におけるコミュニケーションの重要性について理解する。
2	コミュニケーションの内実1	コミュニケーションに関する理論について理解することで、業務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る。	コミュニケーション理論及びコミュニケーション・モデルについて理解する。
3	コミュニケーションの内実2	コミュニケーションに関する理論について理解することで、業務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る。	コミュニケーション・ノイズの種類について理解し、その解消法について習得する。
4	コミュニケーションの内実3	コミュニケーションに関する理論について理解することで、業務遂行の上で役に立つコミュニケーション能力の向上を図る。	ノンバーバルコミュニケーションの要素と機能について理解する。
5	コミュニケーションの実際1	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める。	社会や職場といった「組織内」におけるコミュニケーションの在り方について実践的に理解する。
6	コミュニケーションの実際2	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める。	コミュニケーションを円滑にするリスニングの在り方について実践的に理解する。
7	コミュニケーションの実際3	これまでの講義内容を生かしながら、TPOに応じたコミュニケーションのあり方について実践し、理解を深める。	来院患者を想定したコミュニケーションの在り方について実践的に理解する。
8	総括	コミュニケーションのあり方について学んだことを整理・確認する。	対人コミュニケーションのあり方を整理・確認することができる。

評価方法

「授業態度」・「小テスト」・「終講試験」等で評価する。特に、コミュニケーション能力は実践力を伴うので、毎回の積極的な発言を重視する。

参考図書等

必要に応じて資料を配布する